



櫻取
高麗
月
一

9
1560
1



1560
1



嫁娘重寶記

伊妹諾伊特冊尊天の浮橋はとらて
 とがこげ下しむいし己未夫婦婿
 婿の道初とつととほさかしくん役人
 申て。嫁日禮の規式と好む中ん人下
 ぎ。一代一度の初盆と年経とそひ
 忘るこもし。か人希き故娘氏
 縁付又ハ嫁をむゆ中時よのそと口く

縁取又ハ嫁

多し。人多し。人間一生の悦事
 と。集めて嫁娘重寶記と名付。奥
 へ献立へのわし海へを加へ。人情の交
 へ。おのづから饗應もさうさう。品は之て西
 季通用の料理を組合て。後子附あり。
 早くもさうし。助もさうし。と。サよの
 洛下隠人
 廣長軒元周序

嫁娘重寶記本之一目録

元例

嫁取此次第

親入目録此調極此習

手物色此番

嫁道之遣此番

氏目礼日此作法

智方之うし久作法

手掛菓子。後一対めん。おのづから歸らる。親

嫁お立。おのづから。うし久。此番あり

宗物依之次第も其信上中此あらひ
嫁入お後此習拾之条此あらひ
座あ此条

座付酒一盃之習為る

加い此次第

又此此次第も

沼吾たい老人の次第もそく修く調極

解入此次第六条

小神お歳祿りこすてんぎりのちごのしのく
まねともまにま守か二尺までのならまの備び

嫁嫁事寶記巻之一

元例

一は書よ祀書此此法は中人より此事を書上はる此ら
夏ハ我らまよ此好たまつる夏より何ら此まよ
は書よ此御家小も類方者と祀者より其此法と二故
け書よ類中人より下ハ類よ此よあま由入嫁嫁此法
と知人も是へ中更へ少く作法を書く細法とす此

嫁取此次第

一仲人より之智此親の言也婚此親の言也たぐひより代
此位又口謹れらと一話両あはしりまへ一其ともたぐひ

先祀をまつり我が妻よよ草もさるやいへしと盡
 又酒七分めほどはぎらふ子よ母をあらまは目かり
 作と盡をさす徳をさすもこれほまへし傳日けはり
 又よかへさばるねん是を常此ありい

士曾祀曰又醴字子命之曰什迎雨相承我宗常最
 仲以敬先妣之嗣若則有常子曰諾唯恐弗堪不
 敢忘命

醴字子命之曰什迎雨相承我宗常最
 仲以敬先妣之嗣若則有常子曰諾唯恐弗堪不
 敢忘命

禮入目錄此調極の中

目錄

綿綿 十卷
 緇 十卷
 綿 十把
 昆布 十把
 吉鴨 三羽
 鯛 三羽
 御膳 三羽

目錄

深緇 二端
 紅緇 二端
 綿 一裁
 昆布 百把
 厚 一羽
 鯛 一羽
 御膳 一羽

奉書此牧野少之のよおれ
 ち書又目錄と云ふおれ
 緇布此の寸法をかへて
 昆布は此の寸法をかへて
 綿は此の寸法をかへて
 鯛は此の寸法をかへて
 吉鴨は此の寸法をかへて
 御膳は此の寸法をかへて

目録
絹 二筋
呉布 一筋
桐 一筋
上

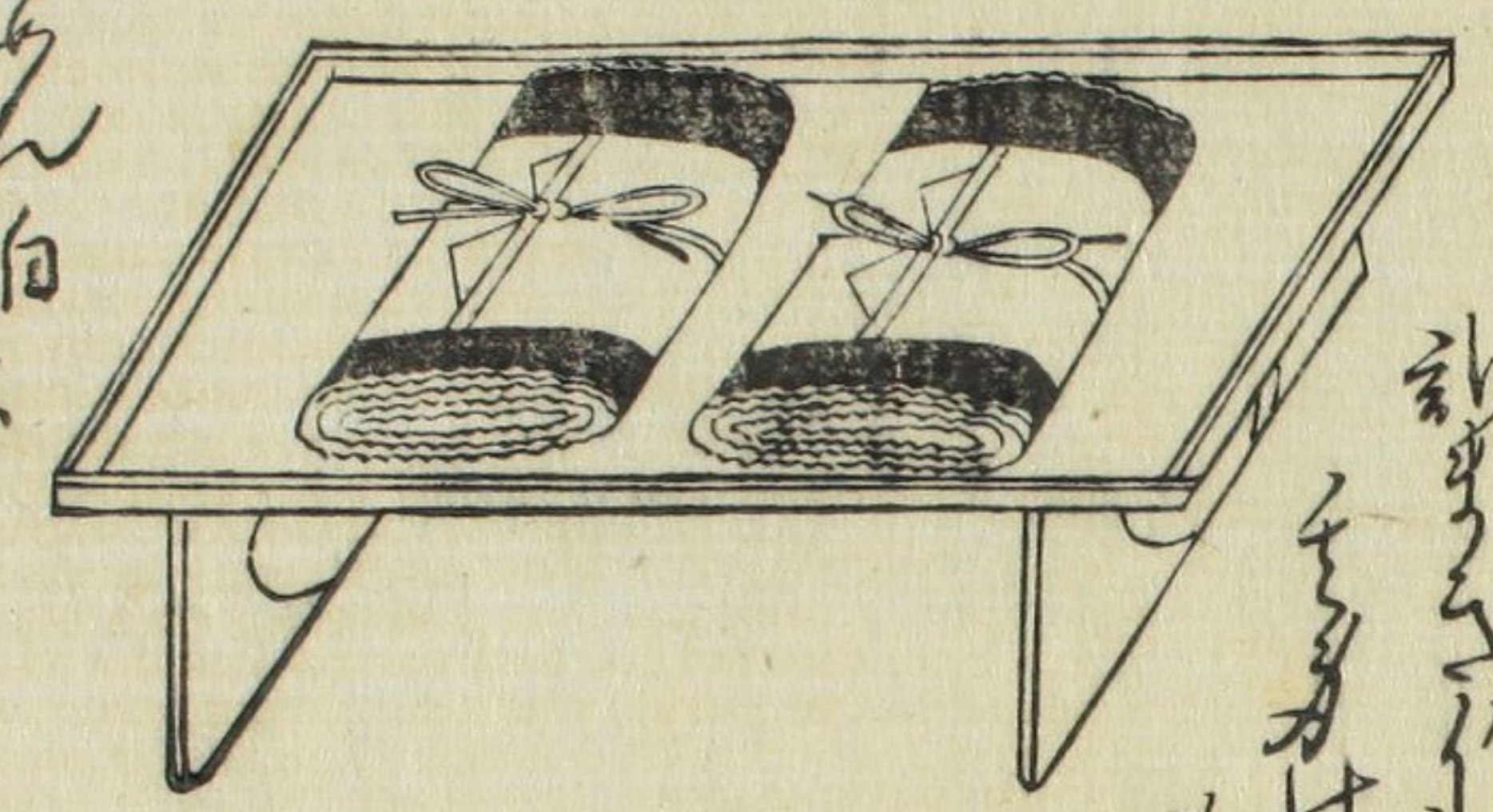
おのを造らざり
桐めりふりこき
田舎めらふら
日あ

かりきこえりあは
もつて一筋の絹が

進上
上三寸五分
一筋
上三寸五分
一筋
上三寸五分
一筋
上三寸五分
一筋
上三寸五分
一筋

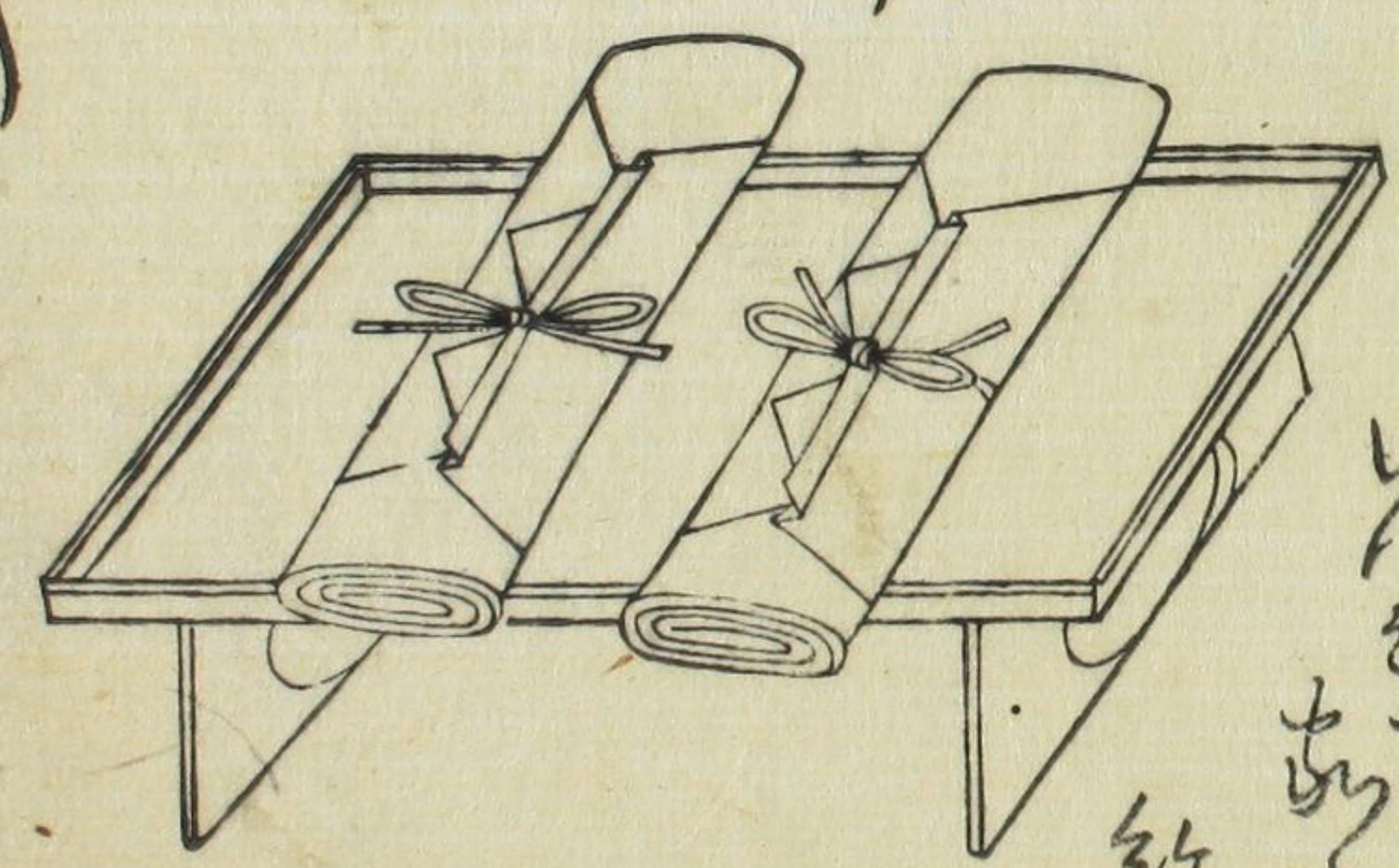
此の絹は古絹なり
此の絹は古絹なり
此の絹は古絹なり
此の絹は古絹なり
此の絹は古絹なり
此の絹は古絹なり
此の絹は古絹なり
此の絹は古絹なり
此の絹は古絹なり
此の絹は古絹なり

ちりめん白



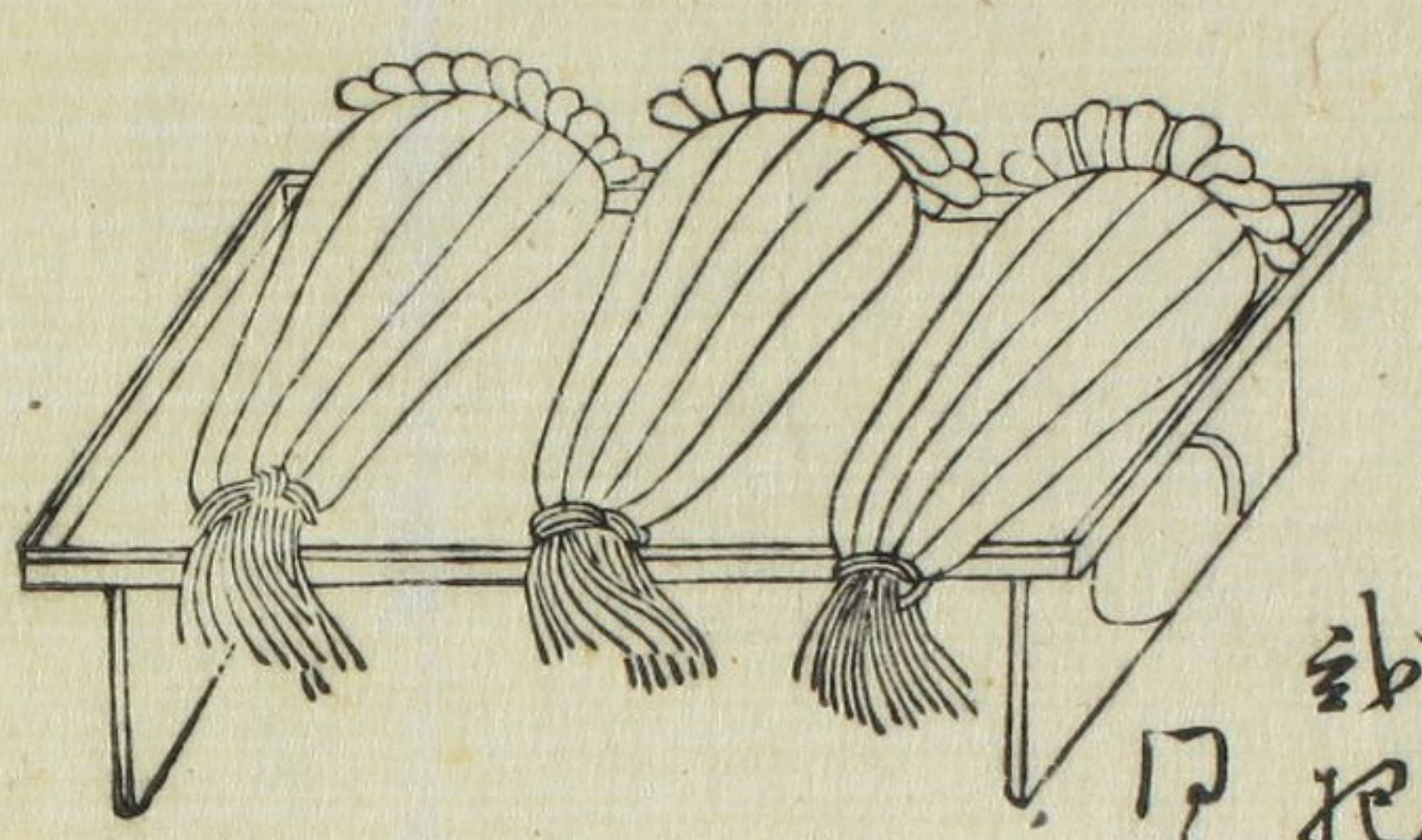
ちりめん白
ちりめん白

ちりめん白



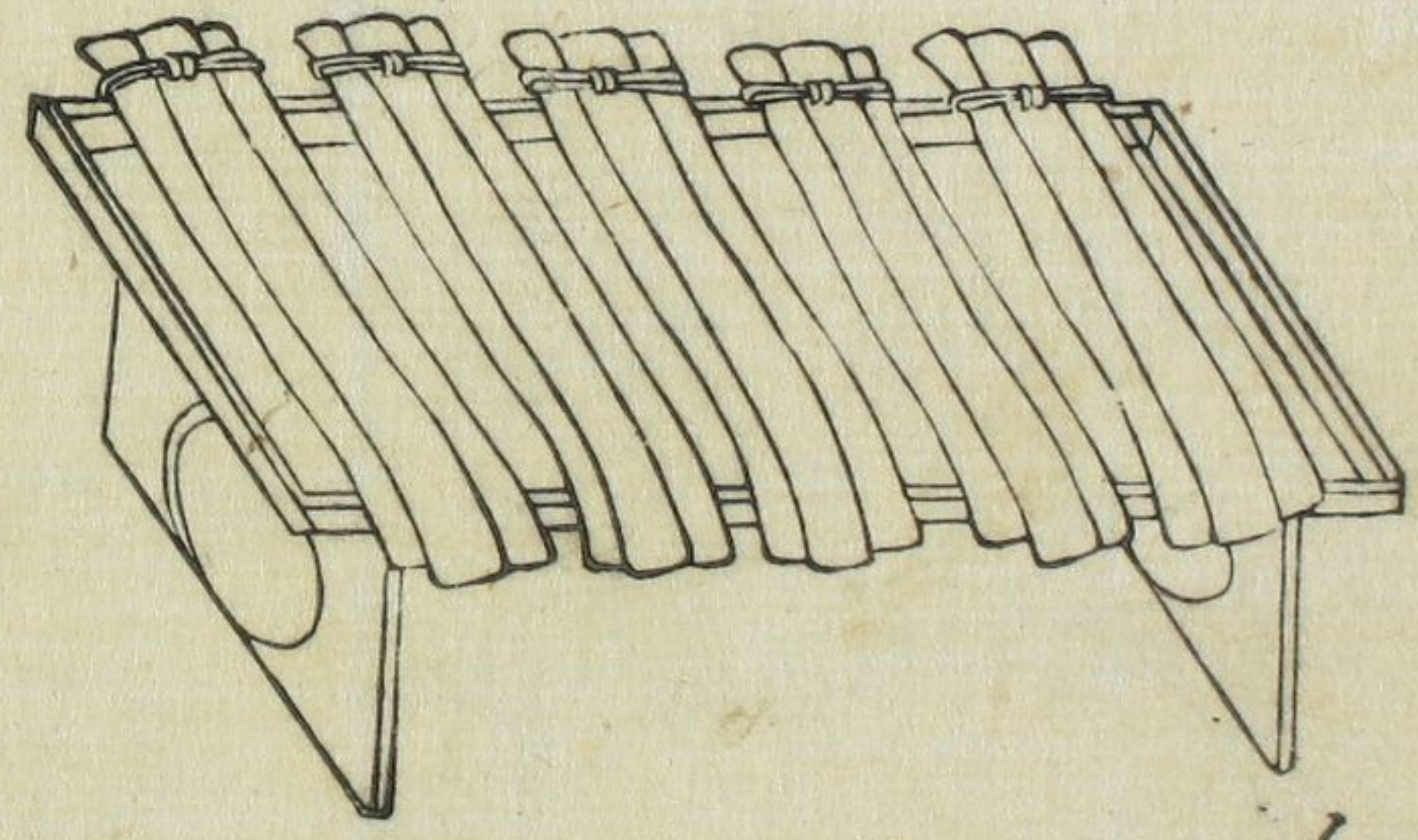
ちりめん白
ちりめん白

鳥籠のつくりかた
大籠は中籠に
比籠は籠に



籠に籠に
籠に籠に

鳥籠のつくりかた
鳥籠のつくりかた

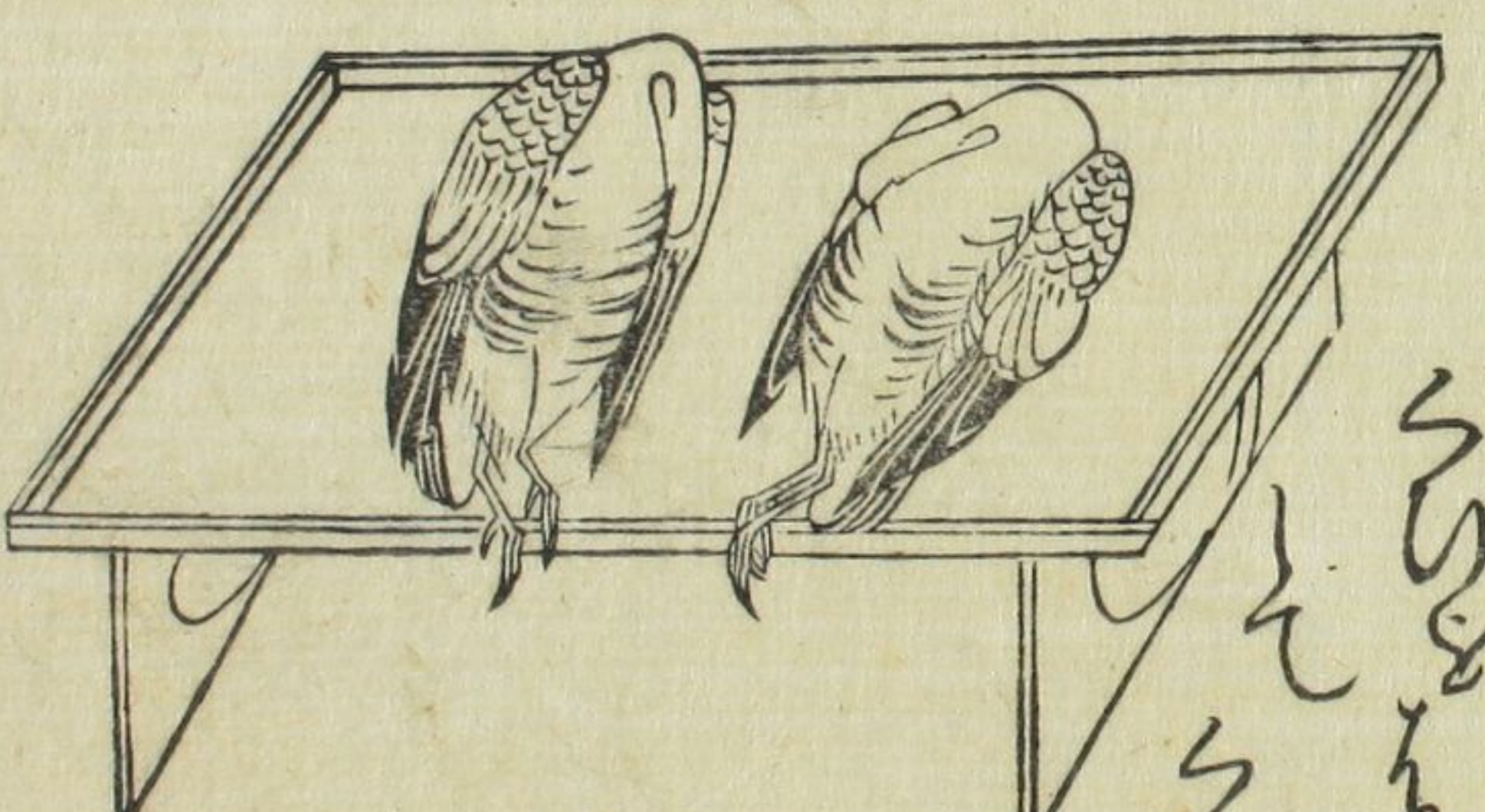


籠に籠に
籠に籠に

鳥籠のつくりかた
鳥籠のつくりかた



鳥籠のつくりかた
鳥籠のつくりかた



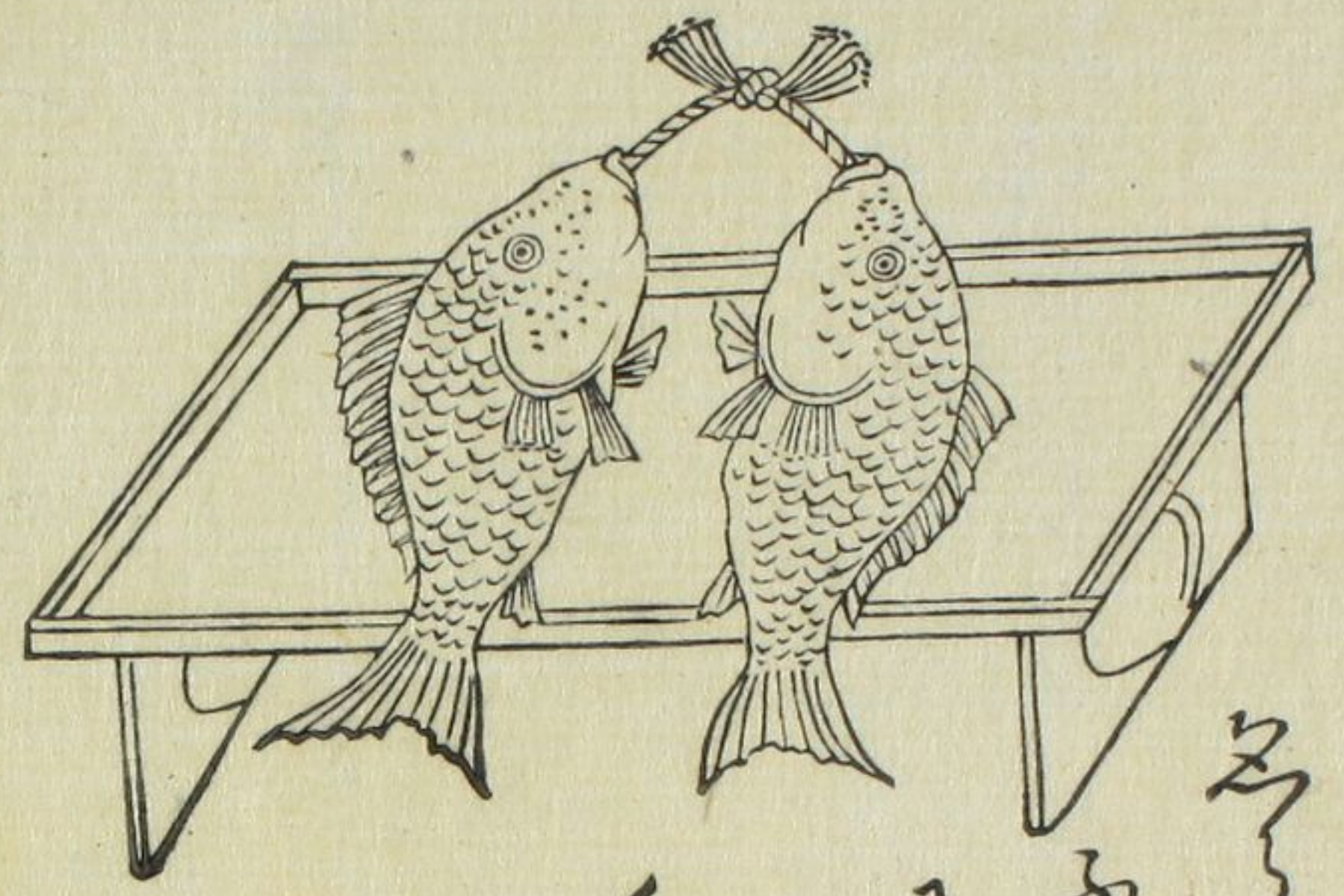
籠に籠に
籠に籠に

鳥籠のつくりかた
鳥籠のつくりかた

鳥籠のつくりかた
鳥籠のつくりかた

鯛ハちりしんすゆき

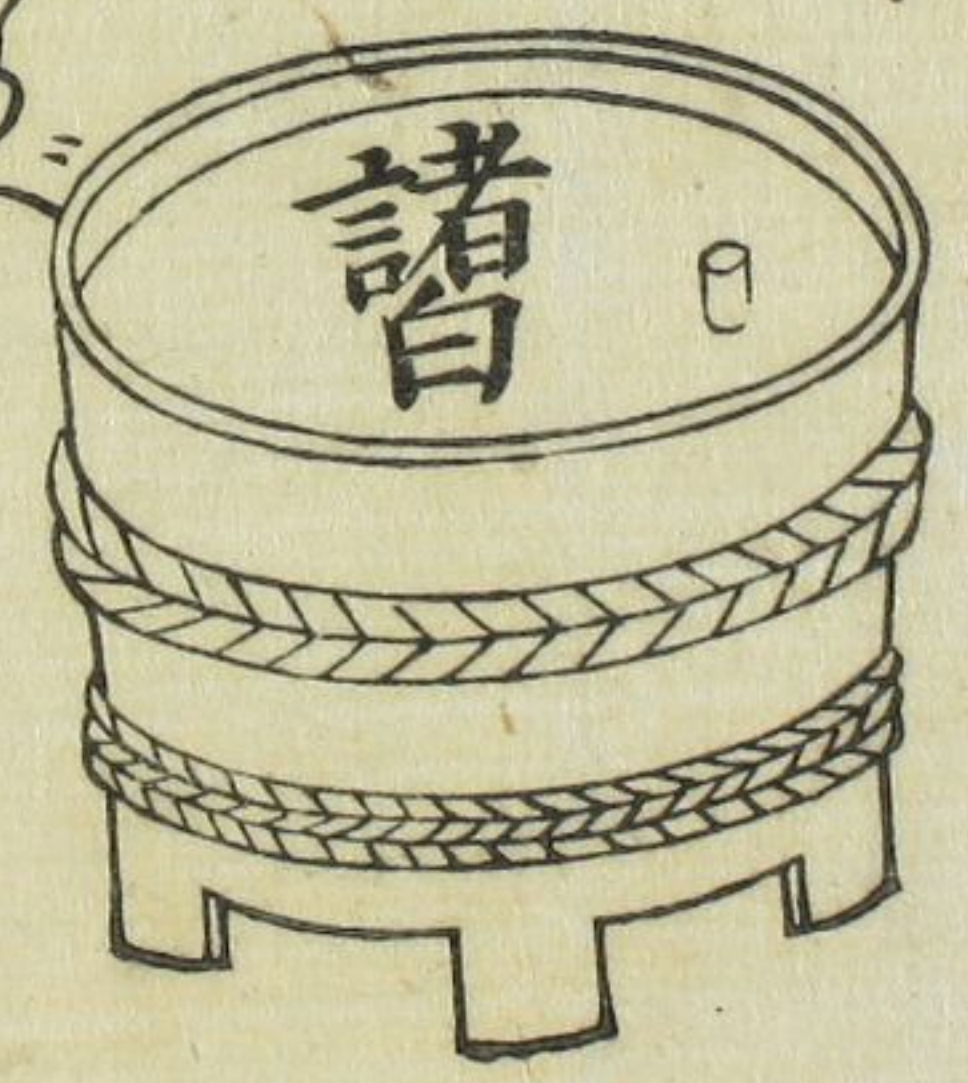
ちりしんすゆき



ちりしんすゆき

ちりしんすゆき

ちりしんすゆき



譜

右の端より左の端へ向ひおるるは後方此使日録を

一親入此日録は久敷お礼の町人を遣はす代り下すを
右の端より左の端へ向ひおるるは後方此使日録を
ゆく習の方はお侍之親入此所を左敷子莊子習此方
のちりしんすゆき試す下ゆく向ひおるるは後方此使日録を
及此日録を右の端より左の端へ向ひおるるは後方此使日録を
をどしよりしんすゆき極まり御世よりしんすゆき信及真人も譜の日玉
度由し日録を信及使の君をたしひおるるは後方此使日録を
習此日録を信及使の君をたしひおるるは後方此使日録を
日録通法持此日録より日録度文細くしんすゆきしんすゆき
二魚茶をどししんすゆきしんすゆきしんすゆきしんすゆき

まつた流之又信友人がく使はし目録信友代の子子
 百正又六指子叙及叙叙正百正まて老之使あり毎ハ
 本使よ百正ありハ叙使よハ三正なるハ一親入給
 来る下ハハ人ぬよ色一叙三費又叙費文り
 去費又女生毎のそ尾治す
 一始嫁此目限お給と一りあり始道と進る
 是も力代も信一者もせん叙と女持たさ
 せん叙と少袖たんと一少と一少と一少と一少と
 せん叙とを娶給とせんといふ一少と一少と一少と
 切ハ叙人ほとと女持と

嫁道具遣次書 先づせん二二

夫婦此

寝道入る

女持



嫁道具遣次書

こまご
小袖入
あが
あがり
あがり
あがり
あがり



あがり
あがり



あがり
あがり
あがり
あがり
あがり



あがり
あがり



あがり
あがり

紋付

ちん
ちん
二

小
対
い



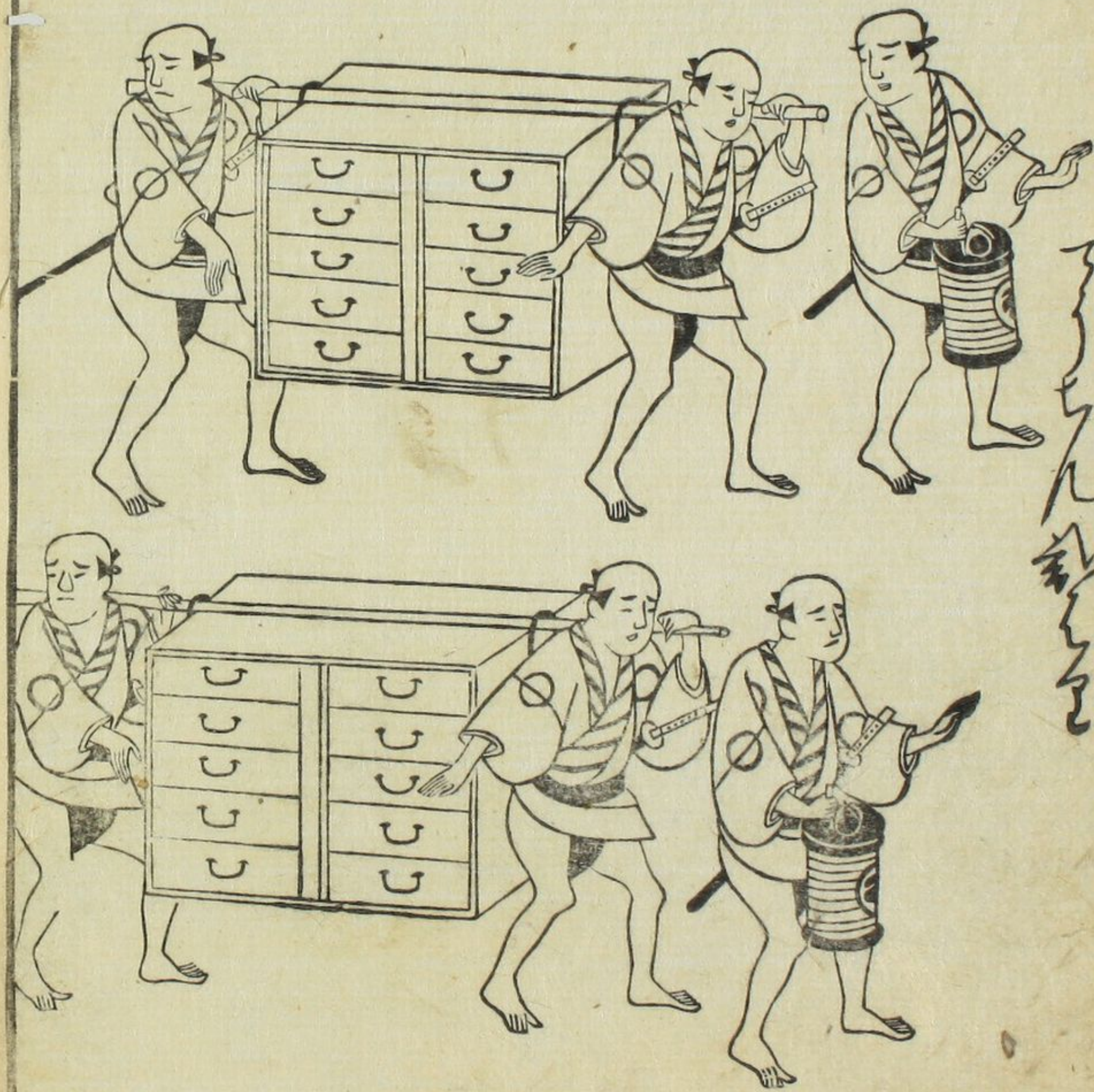
大
一



の
の

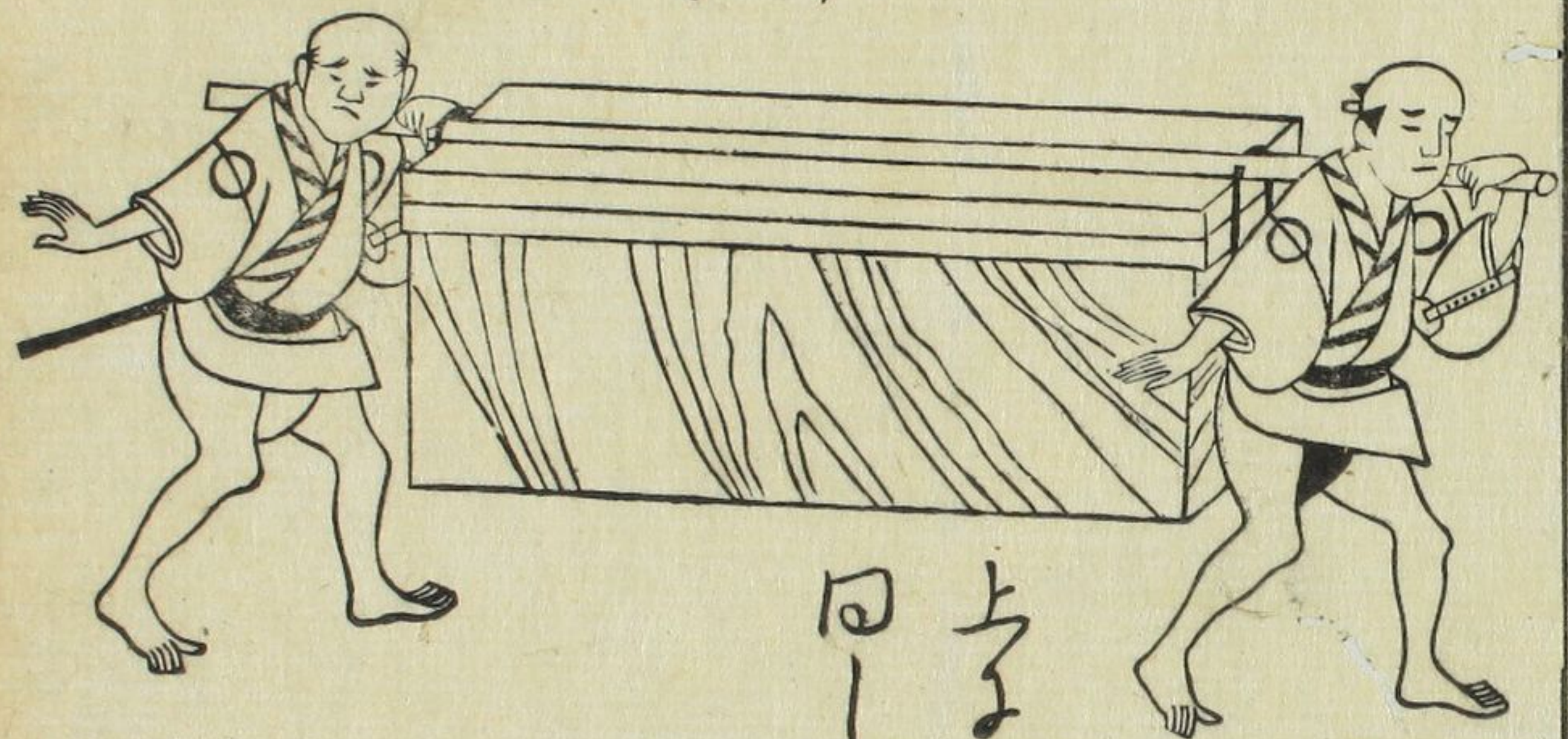


小
袖
た
部



ちん
ちん

大長持
 いろく
 さらし
 乃長
 今
 今



上
 一
 回



つ
 今
 今



大いふ

つ

今
 今



切
 今
 今



今
 今

おしへ五人



自分此のうら



自分此のうら

町人五人



新代

新代

とて道夫にぐるや店に徳丸

かき



昏礼見作法

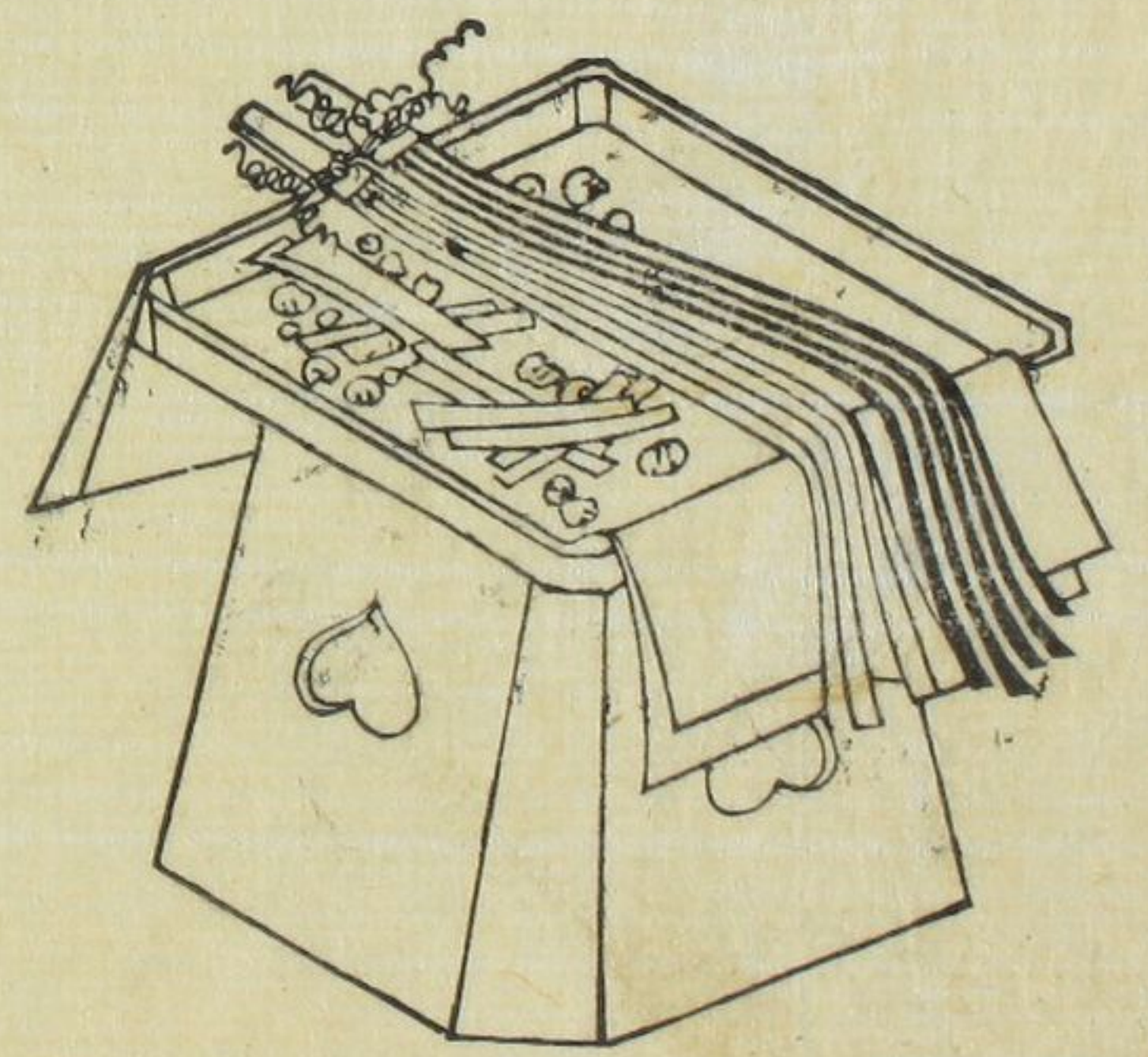
一 婿親此方用意相済むれば娘湯風呂へ入ると何
 かの洗粉を心置きと扱ふべし。此色もするま
 じの事へ。能湯ゆく。この湯。つらがるをゆるが
 ぐ。色もきせし。し。能湯。お。け
 事。此。類。ら。び。ま。う。り。是。れ。も。ま。く。湯。の。と。し。松。子。と。紙
 を。も。屋。づ。げ。湯。を。か。け。ぬ。ら。い。と。へ。と。ま。ら。く。し。て
 又。お。し。あ。け。き。や。ま。へ。又。松。子。ゆ。く。中。あ。へ。と。ま。ら。く
 し。て。わ。ら。う。ひ。が。ら。る。け。し。や。と。一。層。ん。と。ま。ら。く。し。て
 又。松。子。を。う。く。と。ま。ら。る。あ。く。と。ぬ。ら。い。と。ま。ら。く。し。て。こ。め。か

夫とよらうび何事とするとも我々とする事向も是言
 とさうとあつ申ハハかりん父母おのいあうす
 能くくよあさるべ一其れらよむきつ海のくからハ
 未代れら二たびい道あし用り申りま一と戸ぬらむ
 母施給結悦日勉之教之夙夜法遠官事
 施給サノ上ル物ツサセ結悦ハ申ラコニハヨクくワシム
 へし教之上サツト心ヲタシテ久シトヨハニ官事家ノ内トムクサモカフナ
 一娘れいけあき時よりつぎの諸事此志向んをさる人
 姉とよけ人系をさ給生娘よハたと又我作らる事
 ともさる事能及よ又母よつらるるといひさう此
 申しはし事い給家さうとさうと申あもちらるるといひ

かきし給へあを能くまよんまらハ及ハサもいさくあま
 かせゆいけさよよあやよあ一此れ物さうらう史
 おしつ也さうとさうとあもいひまうくおさし事と遠色
 新くもさぎやけいさるもさるもさるもさるもさるも
 庶母及門内施般草申之父母之命日敬若聽之
 爾父母之言夙夜法遠官事視諸給般草
 庶母ハ家内ニテ母ゴトクスル人及門内トハコレヲ出ス時施般草イト
 ハリヲ指出申定トハ父母ノコトハニカサヌルニトラー又母ノ命ノコトク敬若ク
 シク其子ハノキータツトニテツトヨシヤニツナカレ自然ハスレ玉ハ是ノ
 知耳言之らるる他法
 一親御方よ切若人さるい給さるむハ一節なる三

方平のけ菓子とらへん能ふよしとて入

てけけけ
千掛菓子番



一門御一ら方とて入能一此七箇のち菓子
品布方切ゆえを切たる个一とら能よ一と白から
け内よを路名生此能とひるべ一とらとち番を

一此七箇のちとらとらとらと

すも能まこれのちとらと

了とつけねかまよとらと

お奉書めくお取とて

包とと水七箇めとらと

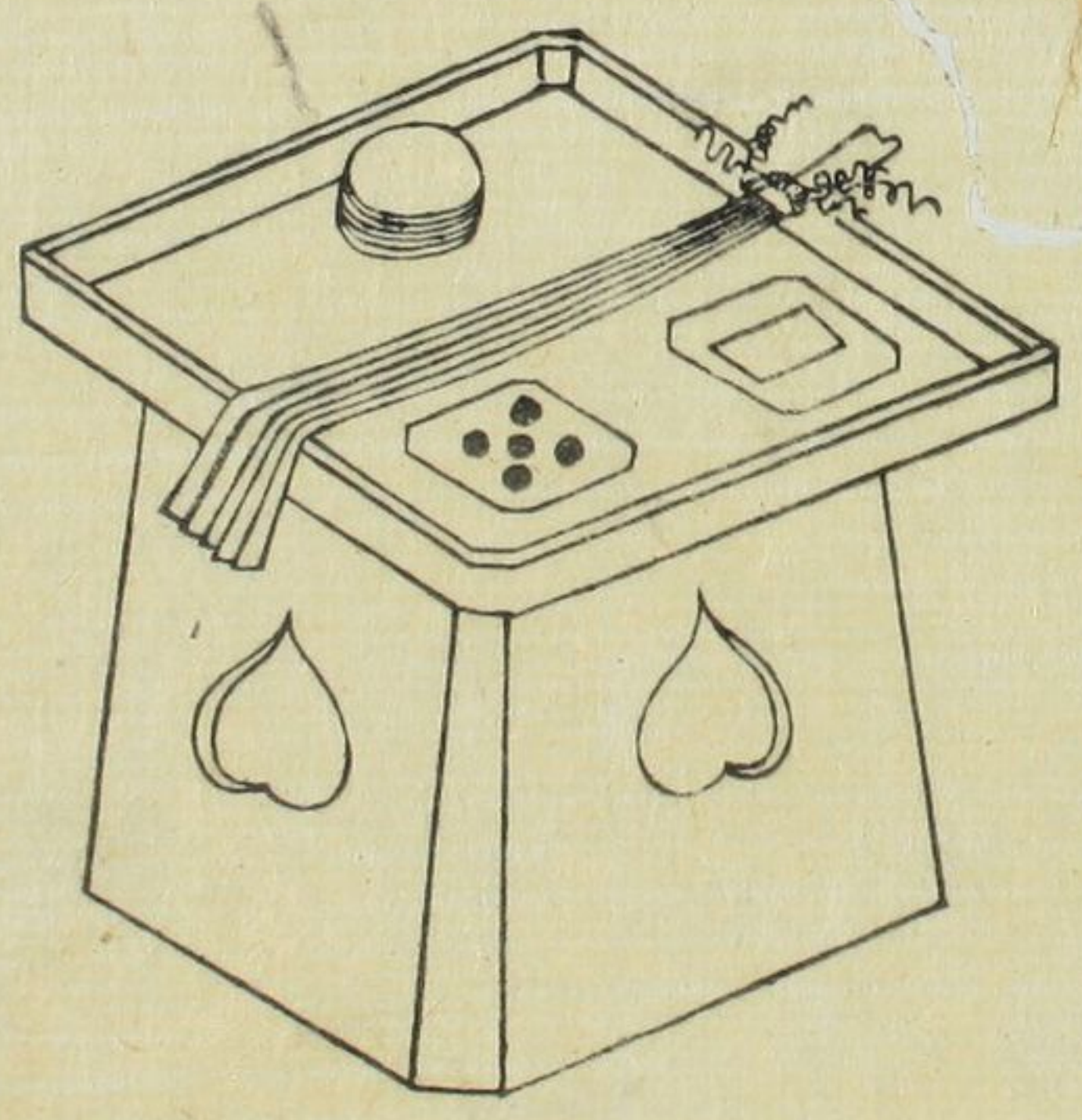
生何重とをを細くけ

まをまきつけとねけバちとてはとらとらと

まへ一板とら此中よはとらとらとらと

おとらと一品布とけらとらとらとらと

らとらとらとらとらとらとらとらと



丸をよへてすくうとぶめて試のよ部小角は

ゆへ付へしんぬ表とよきし是もせし付る

一めんあき討よ志やうくくまへし

にれよははるよ海く若葉

とゆびる葉は若葉とくり

付つるを白き奉書書めく

まきこ白きゆひゆく立

此くまを節を付てくくへ

一つれしん此方よ細

奉書物を
まじげハ
あらまき
水月めし
まき



とまづるよ水月大角通一

つひぬけちつてあき十箇のた

ゆるし男て此打取半く

一難煮下よ焼たゆ大根と

とよ金あまびむまひれ

こもよとせなまはめめく

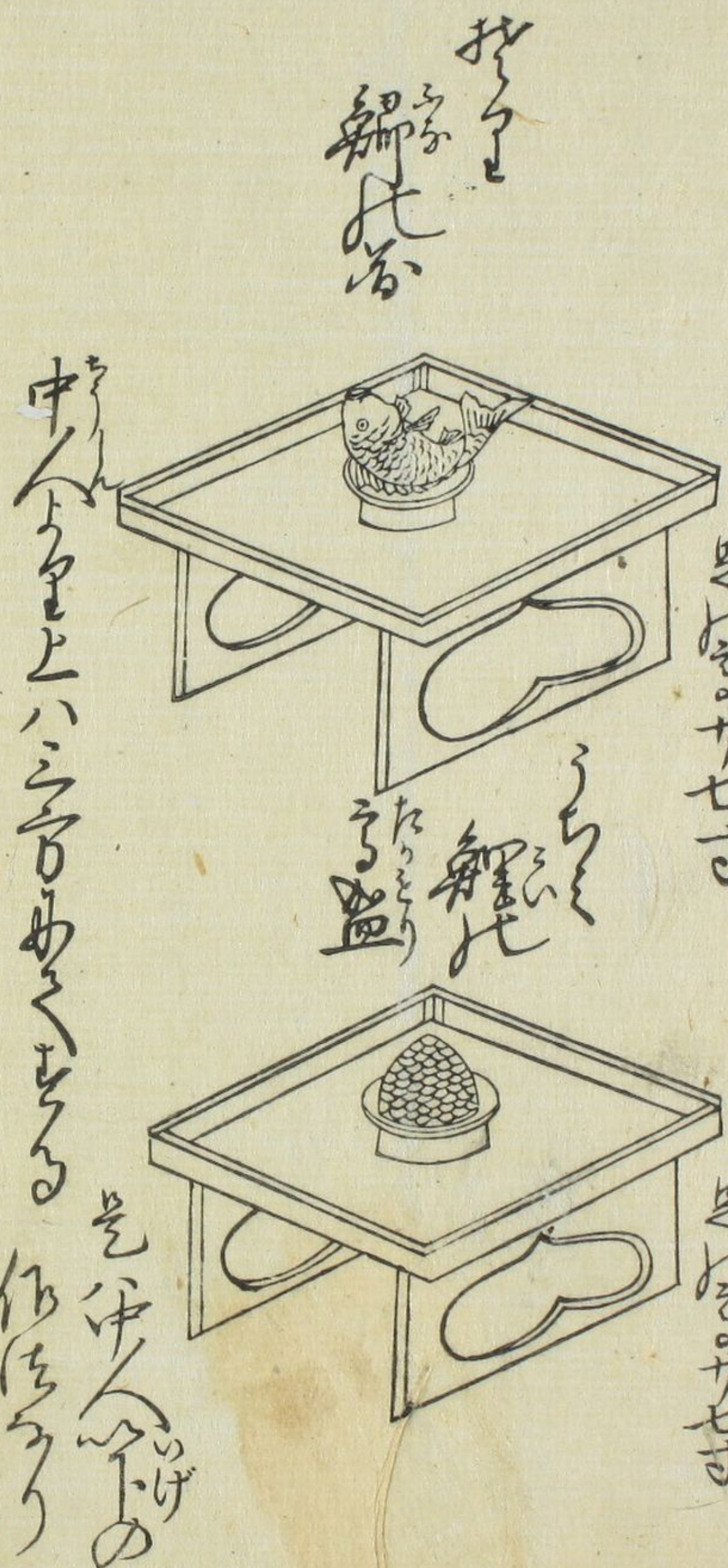
一向よ小角よ左は右白つる

魚へしあよこくちあよ

そくすちあへしあよ

死しんへあへしあよ

一八寸此少是此きさだの輪を友と君と此せりる鮎きり
 又八寸よま輪煮いせ解を解せり平作きよん丸くも
 是へ一人好よ合ありりへ魚へ一
 表八寸は言 是れりサ七寸



一 流敷作友ハ言くく人なま行ゆくも流敷ある治を
 是之申式ハ流敷より流敷と書たり下ハ平よ香
 作也も流敷知るへ一は流敷の申ハ流敷の申ハ
 作箱より申すトは一は流敷の申ハ流敷の申ハ
 是申箱申外申すも申せん其も流敷んごん
 一 嫁友はあ日くく申式方より一諸事此か
 申す申式日かがる申式一は流敷又度向申す
 申す物と申す申式申す申式申す申式申す
 申す申式申す



